

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はこのところ減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

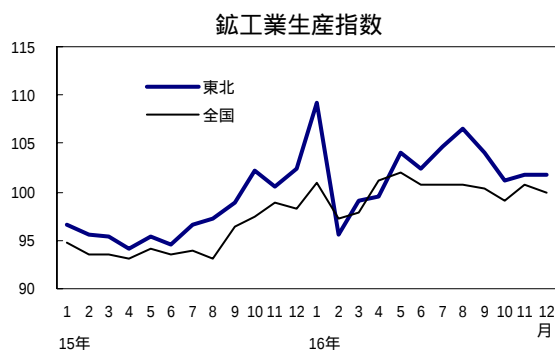
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 11 月）	今回（平成 17 年 2 月）	
鉱工業生産	増加	このところ減少	↓
住宅建設	おおむね横ばい	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ減少している。

電子部品・デバイスは、デジタル家電の生産調整により、それらに使われていた固定コンデンサやモス型半導体集積回路が前期を下回ったこと等から、減少している。食料品・たばこは、バター、清涼飲料、果実缶詰が前期を下回ったこと等から、減少している。情報通信機械は、9月の中間決算に合わせた生産増の反動で端末装置が前期を下回ったこと等から、減少している。一般機械は、半導体製造装置やバルブ・コックの勢いが鈍化したこと等から、減少している。電気機械は、非標準変圧器が前期を下回ったこと等から、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
電子部品・デバイス	19.3	1.9	▲2.4	▲2.9	64.8
食料品・たばこ	12.9	▲3.1	▲2.4	▲0.8	▲17.0
情報通信機械	11.6	9.2	▲6.5	▲13.4	▲36.2
一般機械	8.6	18.7	▲7.5	▲8.9	▲7.6
電気機械	5.8	6.3	▲5.4	▲4.8	▲7.4
鉱工業	100.0	2.9	▲3.3	▲2.9	▲1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

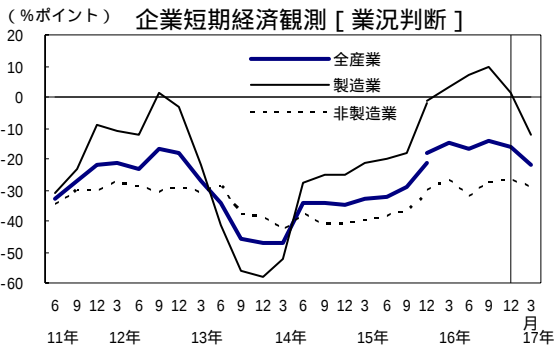
2. 10～12月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

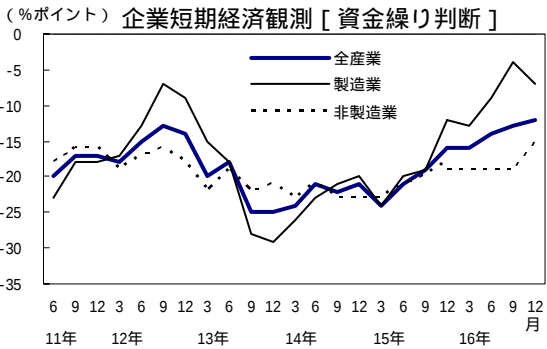
2. 平成16年12月の東北は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

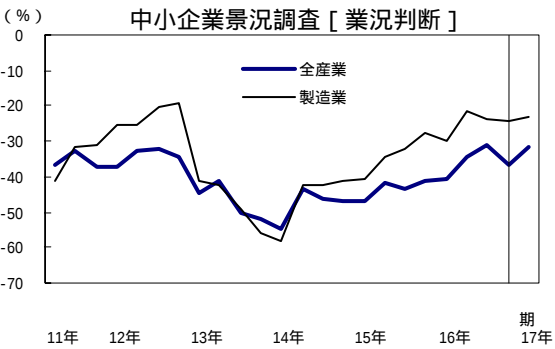
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1 月) [企業動向関連 (現状)]

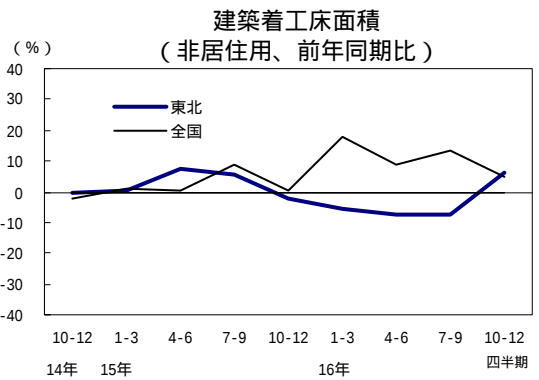
「取引先の受注量は変わらないか減少、さらにコストダウン要求により利幅が更に悪化している (電気機械器具製造業) 」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	15 年度実績	16 年度計画
全 産 業	20.8	27.1 (▲3.5)
製 造 業	20.3	62.9 (▲7.5)
非 製 造 業	21.2	▲3.7 (2.9)

(備考) () は前回 (9 月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

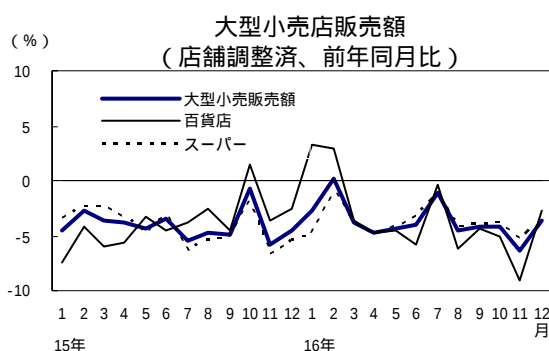
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、飲食料品が前年並みとなったものの、主力の衣料品が暖冬の影響で苦戦し、全体では前年を下回った。11月は、暖冬の影響で衣料品が落ち込んだことに加え、飲食料品と身の回り品も振るわず、全体でも前年を下回った。12月は、中旬まで暖冬の影響が続き衣料品が鈍った。身の回り品はクリスマス関連のアクセサリ等が好調だったものの、衣料品の減少を補うまでに至らず、全体では前年を下回った。

スーパーは、飲食料品が横ばいであったが、衣料品が暖冬の影響で落ち込み、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

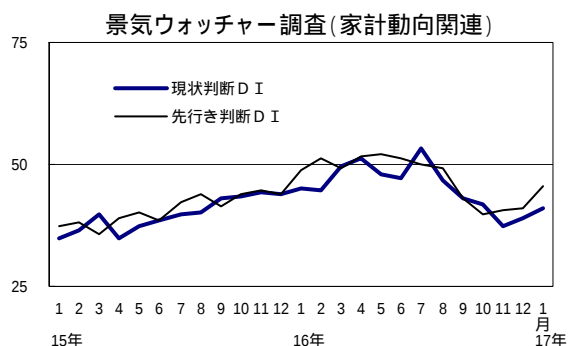
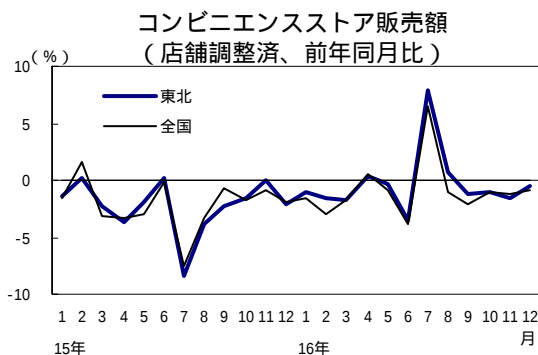
「初売り、クリアランスは順調であり、引き続き催事関連も順調である。しかし、普通の売場の通常販売商品については動きが鈍い。特に家庭用品、食品、インテリア、家具のカテゴリについては動きが鈍い(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲2.3	▲4.4	▲3.2	▲4.6
百貨店	0.5	▲5.0	▲3.5	▲5.4
スーパー	▲3.3	▲4.1	▲3.1	▲4.3
コンビニ	▲1.5	▲1.2	2.5	▲1.1
景気ウォッチャー	46.4	48.8	47.6	39.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

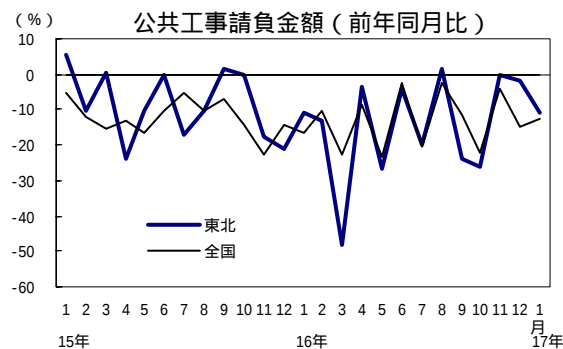
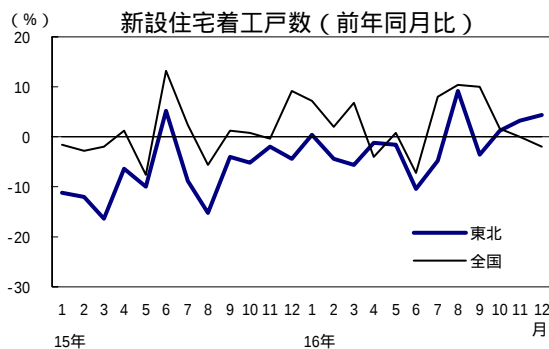
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家を中心に前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

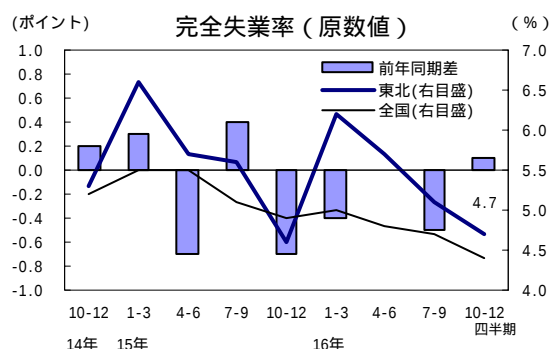
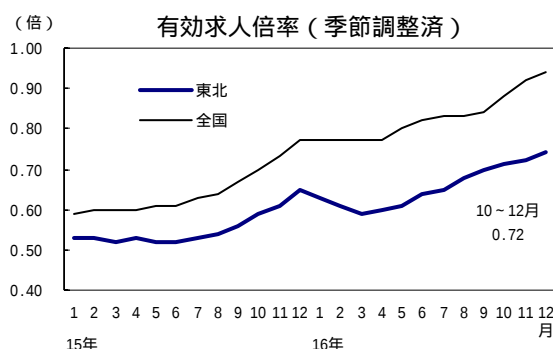


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

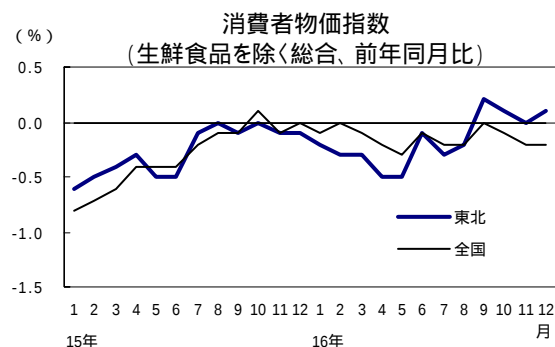
「大学3年生向けの合同会社説明会への申込が増えており、求人意欲が引き続き好調である (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	17年1月
倒産件数	244	244	222	239	83
(前年比)	▲25.8	▲20.5	▲23.7	3.9	18.6
負債総額	801	1,070	444	1,435	431
(前年比)	▲48.1	▲29.2	▲67.8	91.6	54.2



○ 景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・中越地震以来、継続して客数が減少している。中越だけでなく県全体の経済の縮小が感じられる。観光客の減少等の二次災害が、まだまだ続いている (スーパー)。

<先行き>

・新球団進出の盛り上がりで、地域経済は活性化が見込まれる。当社にとってはマイナスの影響が考えられるが、まだ見極めがつかない (遊園地)。

